

(4頁からの続き)

たとえば「元の理」解説において、独自の思想を開拓した故蔵内数太は、従来荒唐無稽なおとぎ話のようにアカデミズムから見られてきた「元の理」は、実は世界の大きな思想の流れと結びついていて、世界思想を一方に考えることなしには味わえることはできないと主張している。ここに紹介するのは、蔵内が解説した「元の理」のグラマーと規定する「規矩」図の構造的解釈である。人間世界創造・救済の六種の水生動物に象徴される生態と方位の説き分けから、仏教の「六波羅蜜」を連想する。六波羅蜜とは「忍辱」「精進」「自戒」「布施」「静慮」「知恵」の6つで、菩薩たるべきものに求められる修行である。これは仏教特有の教えであるが、基本的には 普遍的かつ宗教的な意味をもっている。いわゆる「元の理」における人間創造の6つの道具はこの原理と同様で、人間に与えられた脳力・行動の6つの種類、すなわち「生きる」「活動する」「行動を選択する」「他に奉仕する」「自己を守る」「言葉を用いる」という行動を包括するという。つまり、六波羅蜜を成立させる前提には、「元の理」において6つの人間世界創造に選ばれた道具がエコロジカルに象徴する人間の基本構造と機能が見られると解釈するわけである。なお蔵内の本規矩図にある「矩」の道具集などの英訳と、「規」の星々の配置は、編集者が英語名で追記した。後者の初出は『G・TEN』23号掲載の大柳義徳「十柱の神」と星象(1987年)である。

教団付置研究所懇話会第15回年次大会に出席

9月29日、中山身語正宗大本山瀧光徳寺(佐賀県基山町)にて標記大会が開催され、高見所長と金子昭が出席した。おやさと研究所は大学付置のためオブザーバー参加の形であるが、同懇話会には設立当初から関わってきている。今回の大会は中山身語正宗教学研究所在当番事務局として主催し、オブザーバー研究所を含めて16の教団付置研究所から合わせて71名が参加した。大会テーマは「日々の信仰生活の中の平和一戦後70年から未来へ」であり、このテーマの下に次の3つの発表が行われた。

発表1

「戦後復興期の金光教における「平和」とその文脈」
(児山真生・金光教学研究部所長)

発表2

「曹洞宗における非戦平和の取組みについて―「愛語」の精神より」
(宮地清彦・曹洞宗総合研究センター専任研究員)

発表3

「真如苑の平和の祈り」
(西浦恭弘・宗教情報センター所長)

昼食後に施設見学が予定されていたが、折あしく佐賀県の一部に大雨警報が出されたこともあって中止となり、その代わりに大本山を紹介するスライド上映が行われた。中山身語正宗は、1912年(大正元年)に宗祖覚恵上人により開教された仏教系の新宗教で、「根本大悲の親」である「中山不動尊」を本尊としている。大本山の瀧光徳寺は緑豊かな山林の中に位置し、20万坪の境内地に

40余りの堂塔伽藍や修行場、研修棟などが点在している。

今回、初めての九州での開催となった教団付置研究所懇話会の年次大会であったが、盛況裡に終了し、伝統宗教及び新宗教の教団関係者や研究者とも交流を深めることができた。

(金子昭 記)

新連載執筆のねらい

伝道と翻訳 ―受容と変容の“はざま”で―

成田道広

本連載では、伝道における翻訳の位置と可能性について考察する。布教伝道の過程で、翻訳を介して「教え」がどのように受容され変容するのかを、インドで興った仏教の事例をもとに考察したい。仏教がアジアの広範囲に伝播した歴史的事実に鑑み、仏教經典の翻訳史に触れ、教理の受容と変容の“はざま”で漢訳仏典がどのような役割を担い、機能していたのかを概観し、仏教の異文化伝道の成果を歴史的に検証したい。漢訳の歴史は「訳経史」とよばれ、これまで多くの碩学によって研究されてきた。本連載では、仏教学者による研究成果を踏まえつつ、新たに異文化伝道の見地から客観的にその成果を俯瞰したい。さらに、「訳経僧」の人生と彼らの信仰実践としての經典翻訳とその翻訳論にも焦点を当て、本教の異文化伝道に資する新たな視座を提示し、本教の翻訳における課題と展望について探究したい。

連載執筆者の紹介

成田 道広(なりた みちひろ)

天理大学人間学部宗教学科卒。ネパールサンスクリット大学大学院宗教哲学科博士前期課程修了。現在、後期課程に在籍。

平成21年より天理教海外部翻訳課勤務。平成21年、平成26年東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所短期共同研究員。平成22年4月～平成28年3月天理やまと文化会議委員。平成27年4月から天理大学非常勤講師。

専門はインド学、インド文献学。研究課題はインド宗教史、ネパール宗教史。著書として、『Hindutvako khoji [ヒンドゥーの探求、ネパール語] (Nepal: Mahendra Sanskrit University, 2006) や『アジア語楽紀行 旅するネパール語』コラム担当、(日本放送出版協会、2007)がある。

『グローバル天理』 合本のご案内

2010年から2015年に出版された『グローバル天理』の合本を頒布しています。これは各1年分(12号分)を1冊にまとめ、簡易製本したものです(頒価は200円)。

合本はご注文を受けて製本しておりますので、研究所事務室にお越しの際は、必ず事前に電話、FAX、もしくはEメールでご連絡ください。なお、郵送による頒布はできかねますので、ご了承ください。